

## 第4回放課後対策事業運営委員会 会議概要（議事録）

●日 時 平成26年2月13日（木） 午前9時30分から午前11時30分

●場 所 教育委員会 大会議室

●出席者

委 員 金子 博之(副委員長)、北原 靖子、蓮見 元子、河村 千津子、内山 千寿、  
荻野 宏江、中嶋 康貴、坂手 千代子、浦島 誠、佐野 史尚、小林 道治、  
佐藤 里美、大野 敦子、鈴木 幸子、松本 守正

事務局 コーディネーター：深谷 幸子、森井 貴美子、古高 すま子

リーダー：野原 明美、河村 千春、飯塚 章江

子ども支援課：相良、黒岩

●事前説明

- \* 議事録作成のための録音許可について
- \* 傍聴要領の承認について
- \* 資料確認

### 1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について

- (1) 第一小学校の運営についての報告
- (2) 根戸小学校の運営についての報告
- (3) 第三小学校の運営についての報告
- (4) 湖北台西小学校の運営についての報告
- (5) 湖北台東小学校の運営についての報告

### 2. 学童保育室及びあびっ子クラブの運営についての報告

- (1) 平成26年度 各あびっ子クラブコーディネーターの発表及び8校目の検討状況
- (2) 放課後児童クラブの基準に関する専門委員会の動向及び我孫子市における進捗状況  
〔資料1〕
- (3) 四小学童保育室新築における進捗状況について

### 3. 川村学園女子大学研究グループによる研究成果及び点検評価についての検討報告

〔資料2・3〕

### 4. その他

来年度の運営委員会委員選出について

- ・ 第1回運営委員会は5月中旬から下旬予定
- ・ 団体から選出されている委員については、改選の場合、引継ぎをお願いします。

公開／非公開：公開  
傍聴人：有り（1名）

## ●会議概要（要約）

### 【開 会】

- ・ 議事録作成のため、録音させていただきたいがよろしいか。[異論なし]
- ・ 本会議は、原則公開となるので傍聴人に関して、ご承認いただきたいがよろしいでしょうか。[異論なし]
- ・ 異論がありませんので、「傍聴要領」に沿って、傍聴人の手続きを行わせていただきます。本日は、傍聴人の届け出は1名です。
- ・ 資料確認
  - ① 第4回放課後対策事業運営委員会 次第
  - ② 社会保障審議会児童部会 放課後児童クラブの基準に関する専門委員会 報告書 [資料1]
  - ③ 川村学園女子大学研究グループによる研究成果及び点検評価についての検討資料 [資料2]
  - ④ 登録児童数・利用児童数（各あびっ子クラブ） [資料3]

### 1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について

#### （1）第一小学校の運営についての報告

（副委員長）あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について、第一小学校から順番に報告をお願いします。

（委員）第一小学校の運営について報告します。まずはあびっ子クラブについて報告します。今年度2回目のチャレンジタイム体験祭りを12月10日に実施しました。9つのチャレンジを同時に行い、参加者は97名でした。そのときの写真と工作を回しますのでご覧ください。いつもは日を分けて行っているチャレンジを同時に行いました。子どもたちは、楽しそうに次々とチャレンジを回っていました。チャレンジタイム体験祭り終了後にサポーター会議及び反省会をしました。一番大きな反省点は、図書室で5つのチャレンジを行ったので、少し騒がしくなってしまったことです。次の開催までに、対策を考えることとしました。その他に冬だけのチャレンジタイムとして、白いクリスマスリース作り、書初め、ミニしめ飾り作りを行いました。ミニしめ飾り作りでは、長いわらを提供してもらい、わらをなうところから始めました。低学年を中心に15名ほどが参加しました。4年生の児童は、うまく縋うことができましたが、低学年の児童はうまく縋うことができず、捻って完成させました。3学期は利用者が少し減りました。一小ではインフルエンザは流行しておらず、閉室する状況にはなっていません。1月末で16時30分閉室が終り、2月から17時閉室になりましたが、16時30分閉室の習慣が残っていて、16時過ぎにはほとんど

どの児童が帰宅している状態です。子どもたちは体を動かして遊ぶのが大好きで、普段は体育館をよく利用しています。最近では雪の影響のため校庭が利用できず、陸上部が体育館を利用するので、あびっ子クラブの子どもたちは、メインルームの隣の地域交流教室を利用することが多いです。先週の土曜日は大雪の影響で、あびっ子クラブを閉室としました。続いて学童保育室について報告します。12月はクリスマスなので、ツリーやサンタのオーナメントを作成しました。また、冬休み前にお楽しみ会を開催しました。2月は豆まきなど、季節に合わせたイベントを行いました。最近では毛糸を使った筒編みが流行っていて、マフラー作成などを行っています。2月上旬に新年度の入室申請が終わりました。一小学童保育室には、非常に活発な子どもたちが入室する見込みとなっていますので、スタッフ同士で対応を考えているところです。3月には、新1年生の保護者向けの説明会や6年生のお別れ会を実施する予定です。第一小学校の運営についての報告は以上です。

(副委員長) ありがとうございました。

## (2) 根戸小学校の運営についての報告

(副委員長) 続いて根戸小学校の報告をお願いします。

(委員) 根戸小学校の運営について報告します。まずは学童保育室の報告をします。根戸小ではインフルエンザによる学級閉鎖がこれまでに5クラスありました。学童利用者では3名かかりましたが、学童保育室が閉鎖するほどの人数にはなっていません。12月には第一、第二、第三ともにお楽しみ会を行い、ビンゴゲームで盛り上がりました。その他に手編みのマフラー作りやクリスマス工作をしました。2月は節分なので、みんなで豆まきをし、恵方巻きを食べて願い事をしました。今後はお買い物ごっこ、お誕生会、避難訓練を予定しています。今までの避難訓練は児童全員がメインルームにいる状態で実施していましたが、次回の避難訓練は校庭など別々の場所にいる状態で行おうとスタッフ同士で話し合いをしているところです。学童保育室第一では、元気な児童が他の児童を不安にさせてしまうことがありました。その二人の距離をおいて、なるべくスタッフが一緒にいることで問題解決を図っています。今のところは二人とも元気に過ごしています。続いてあびっ子クラブについて報告します。12月に「劇団どろんこ」の観劇をしました。1月は体育館が使用できない日が多かったため、普段は1つずつ行っているチャレンジを2つ同時に行いました。ダブルダッチとバドミントンを同時に行ったところ、一日に2つもチャレンジができてよかったという意見が多かったです。今後は2月22日にスポーツフェスタが予定されています。今までは午後だけの実施でしたが、今回は午前から開始となり、種目が増えます。スポーツフェスタには、今年の6月に世界チャンピオンになったダブルダッチチームが来る予定で、技を披露してくれることになっています。あびっ子クラブスタッフは実行委員として長縄をすることになって

います。また、新しいチャレンジを子どもたちに体験してもらいたいという思いから、3月にはお茶を点てる予定となっています。あびっ子クラブの利用状況についてですが、12月は一日あたり35名ほどの児童が利用しています。1月は少し減り、一日あたり27名ほどの利用となりました。今から回覧する写真は、北部地域の文化祭でお箏の演奏をしているときのものです。今年は尺八を演奏する方も参加していただき、例年以上に盛り上がったと思います。発表する児童が昨年比べて2名増えて9名でした。その他、手芸が子どもたちにはとても人気があります。作品を今から回しますので、ご覧ください。節分のときには鬼の大きなお面と豆を自分たちで作り、鬼を的にした得点ゲームを行いました。雛祭りのときは、事前にいただいた7段のひな人形をスペースの都合で飾ることができず、3段のロッカーの中に入れる形で飾りました。7段に飾りたかった子どもたちが、厚紙に残りの4段分の絵を描いてつなげ、7段できたのがすばらしかったと思います。以上です。

(副委員長) ありがとうございます。

### (3) 第三小学校の運営についての報告

(副委員長) 続いて第三小学校の報告をお願いします。

(委員) 第三小学校の運営について報告します。まず学童保育室について報告します。学童保育室の現在の利用者数は年度初めに比べ減っていて、落ち着いた状況です。登室数は60～65名となっています。三小ではインフルエンザが流行っていて、現在3クラスが学級閉鎖になっています。学童保育室の利用者にも影響が出ており、昨日は登室数が40名ほどでした。12月はマフラー作りやクリスマスツリー作り、また、お正月に向けて箸袋作りをしました。学校では長縄が終わり、短縄が始まったところなので、学童の子たちも短縄を跳んで楽しく遊んでいます。続いてあびっ子クラブについて報告します。体育館の耐震工事がもう少しで終わるので、体育館が利用できるようになります。学校が休みで学校の先生たちの協力が得られない状況のときに災害が起きたことを想定して、冬休み中にあびっ子クラブ単独での避難訓練を実施しました。チャレンジの囲碁では、飽きてやらなくなってしまう児童がいますが、継続している児童もおり、サポーターさんがいなくても自分たちだけで打てるレベルになっています。チャレンジの工作は人気があり、多いときは50名以上が参加しました。冬は利用者数が減る傾向にあり、平均25名ほどが利用しています。最近ではインフルエンザが流行っているため、利用者が20名を下回る日もありましたが、多い日は40名を超えることもありました。三小で特徴的なのは、6年生の利用者が多いことです。部活動が終わった後、30分だけでもあびっ子クラブに寄って、宿題をしたり、低学年の子と遊んでくれたりしています。以上です。

(副委員長) ありがとうございます。

#### (4) 湖北台西小学校の運営についての報告

(副委員長) 続いて湖北台西小学校の報告をお願いします。

(委員) 湖北台西小学校の運営について報告します。まず、学童保育室について報告します。学童利用者は2月1日現在で26名です。1月末からインフルエンザが流行り、学級早退及び学級閉鎖がありました。学校の先生が協力してくださり、学級閉鎖になっているクラスの児童は閉鎖期間中に学童保育室を利用できないことを教室内で児童に伝えるとともに、メールで保護者にお知らせしてくださいました。最近は利用数が減っているのと、インフルエンザの影響で登室数が少なかったことがあり、学童保育の児童があびっ子クラブに来ている子どもたちと一緒に遊ぶことが多かったです。冬休み中はマフラー作りや折り紙をして遊びました。2月の節分のときは、人気のゆるキャラのお面を作り、それをスタッフが付けて大変盛り上がりました。続いてあびっ子クラブについて報告します。あびっ子クラブで昔から使っていた人生ゲームがかなり傷んだため、新しいものを買ったところ、順番待ちになるほど子どもたちにとって人気の遊びとなっています。交流教室が使用可能なときは、風船バレーを行っており、子どもたちは夢中になって取り組んでいます。チャレンジでは、グランドゴルフが大変人気があり、今までやってきた囲碁と手話ダンスは子どもたちに根付きつつある状態です。囲碁には高学年の児童が多く参加し、低学年の児童があまり参加しない傾向があるため、どうすれば低学年の児童にもっと参加してもらえるか、サポーターさんたちと検討していきたいと考えているところです。チャレンジで工作するときは、いつもおたよりで何を作るのか知らせているのですが、12月から写真付きでお知らせするようにしたところ、とてもわかりやすくなり、参加児童が増えました。今後もわかりやすいおたよりを作れるよう、工夫をしていきたいと思っています。11月～1月の冬時間の午後4時30分閉室期間の利用者を昨年と今年で比較したところ、今年の方が多かったです。2月から17時閉室に戻り、長く遊べることを喜んでいる子どもたちの様子を見て、子どもたちにとって30分の違いは大きいと思いました。インフルエンザの流行が落ち着けば、利用者数も回復してくると思います。具合が悪そうな子がいたら声をかけて、様子を見ながら早めに帰るよう促しています。以上です。

(副委員長) ありがとうございます。

#### (5) 湖北台東小学校の運営についての報告

(副委員長) 最後となりますが、湖北台東小学校の報告をお願いします。

(委員) 湖北台東小学校の運営について報告します。学童保育室の登録児童数は現在33名です。2月に体育館の耐震工事が終わりました。子どもたちは体育館が使用できる日をとても楽しみにしていて、使用できる日はたくさん子どもたちがあびっ子クラブに集まるようになりました。午後4時30分閉室となった11

月以降、あびっ子クラブの利用者が大幅に減りまして、利用者が10人未満の日もありました。体育館が利用できるようになったことで、利用者が増えると思います。学童保育室では、他の学童保育室と同様、毛糸で編み物をしたり、クリスマスに関する物を作ったり、節分のときは豆まきを行ったりしています。2学期が始まったときに、あびっ子クラブへ市民の方から電子ピアノをいただきました。このピアノを利用する子がとても多く、ピアノを弾ける子の伴奏に合わせてみんなで歌を歌ったり、ピアノが弾けない子もチャレンジしたりしています。また、先日のバザーでPTAの方が用意したフライングピザという段ボールで作った的当てゲームをバザー後にいただき、あびっ子クラブに置いています。このフライングピザは子どもたちにとっても人気があり、あまりに激しく遊ぶため、2つのうち1つはすぐに壊れてしまいました。もう1つについては、学童保育室で節分のときにピザの裏に鬼の顔を描き、豆まきをしました。最近学校内では、郵便局遊びが流行っています。あびっ子クラブにも郵便番号をいただき、ポストを設置しました。早速お手紙が届き、すごく嬉しかったです。返信するためには切手が必要で、切手を手に入れるためには牛乳キャップが必要です。スタッフは牛乳キャップを持っていなかったのですが、子どもたちに声をかけたらくさんもらえ、すべての手紙に対して返信することができました。郵便局遊びに参加することができて嬉しかったです。あびっ子クラブの参加児童数を増やすために、メインルームの外にイベントのお知らせを掲示しています。ちなみに今日は工作で「筒返し」を作りますが、子どもたちにわかりやすくするため、作品と一緒に展示しています。冬休み前には、農家の方に協力してもらい、しめ飾り作りをしました。冬休み明けに子どもたちに冬休み中の楽しかったことを聞いたところ、自分で作ったしめ飾りを親に褒められたと言っていたので、よかったなと思いました。来年以降もぜひ続けていきたいと思っています。サポーターさんの中に湖北地区社協の方がおり、5月に向けて鯉のぼりイベントを企画してくださっています。でき上がった鯉のぼりを湖北台西小あびっ子クラブと一緒に、湖北台中央公園で泳がせたいと考えているところです。2学期から始めたお習字のチャレンジでは、湖北台東小の近所に住んでいるサポーターさんが熱心に通って教えてくださっています。学校から図工室をお借りして、チャレンジを続けることができます。それから、コマの台をようやく作り、コマで遊べるようになりました。また、けん玉を購入し、昔遊びコーナーを設置しました。5月になると新1年生を迎えることになるので、落ち着いた運営ができるよう、現在検討中です。以上です。

(副委員長) ありがとうございます。5箇所のあびっ子クラブからの報告が終わりましたが、何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

(副委員長) では、私から質問しますが、根戸小あびっ子クラブに劇団が来て観劇をしたという話がありましたが、保育室で招待したのでしょうか。

(委員) ボランティアで演劇を行っている方たちで、そのメンバーの中に根戸小あびっ子クラブでサポーターをしている方が在籍しています。その方が仲間を連れて、根戸小あびっ子クラブに来て演技をしてくださっています。

(副委員長) ありがとうございます。その他に何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

(副委員長) 先ほど湖北台西小あびっ子クラブの報告の際、サポーターさんの力が大きいという話がありましたが、根戸小あびっ子クラブでサポーターをされている委員の方は何かご意見はありますか。

(委員) ご質問いただいた内容と異なりますが、意見があります。まず1点目は、この会議の進め方について意見を述べます。この会議には様々なキャリアをお持ちの方が参加していますので、現場で発生している課題や問題点を出席者全員で共有し、積極的に意見を出し合って解決策を見つけていくことが理想的な会議だと考えています。サポーターさんの登録が少ないところがあるのであれば、どうすれば登録を増やすことができるか。また、チャレンジタイムの種類が少ないところがあるのであれば、どうやったら種類を増やすことができるのか。こういったことを話し合っただけで前進のある会議にしていけたらと思います。2点目は、子ども支援課の職員にもっと現場に足を運んでもらえたらと思っています。平成26年度は、並木小学校と布佐南小学校にあびっ子クラブが設置されますが、平成27年度以降も毎年、あびっ子クラブは増えていくと思います。そのときに、子ども支援課が企画、立案していけるよう、しっかりとした体制を組んでいただきたいと思います。

(副委員長) ありがとうございます。課題や問題点を共有して、解決策を見つけていく会議にすべきというご意見がありましたが、とても大事なことだと思います。これから設置されるあびっ子クラブに対して、既に設置されているあびっ子クラブから運営方法を報告しています。あびっ子クラブによってはサポーターさんの集め方、サポーターさんとの関わり方に悩むかもしれません。この会議は、そういったことの解決策を共有するために、各あびっ子クラブからご報告いただいています。サポーターとしてもう一人の委員の方は何かご意見ありますか。

(委員) 私はこの会議に参加して、他のあびっ子クラブでのやり方を自分が在籍しているあびっ子クラブに取り入れられないか注目しています。部屋の広さなどの条件が違いますので、取り入れるにあたって難しいところもありますが、他のあびっ子クラブの良いところを取り入れるよう、この会議に参加しています。

(副委員長) ありがとうございます。先ほど湖北台東小コーディネーターから湖北台地区

社協による鯉のぼりイベントの提案の話がありましたが、詳しくお話いただいてもよろしいでしょうか。

(委 員) 湖北台全域でまちづくり協議会と地区社協が合同となって行うイベントです。湖北台中央公園で各家庭で不要品として集まった鯉のぼり100匹以上に、子どもたちが作った鯉のぼりを加えて泳がせたら、感動するのではないかと思ったのがきっかけです。湖北台西小あびっ子クラブと湖北台東小あびっ子クラブには、ぜひ目立つ鯉のぼりを作ってもらいたいと思っています。

(副委員長) ありがとうございます。サポーターさんの中にそういったイベントを企画する方がいて、声をかけてくださるのは非常にありがたいことだと思います。

(委 員) この会議の場が、地区社協及び各種スポーツや囲碁などのクラブとあびっ子クラブがつながるきっかけになって欲しいと思います。

(副委員長) では、次の議題に移ります。

## 2. 学童保育室及びあびっ子クラブの運営についての報告

(1) 平成26年度 各あびっ子クラブコーディネーターの発表及び8校目の検討状況

(副委員長) 今年度で退職される方、新年度からコーディネーターになる方からご挨拶をお願いします。

(事務局) 一小あびっ子クラブのコーディネーターです。慣れてきまして円滑に運営ができていますので、来年度もこのまま過ごしていきたいと思っています。安全に気をつけて運営していきます。

(事務局) 根戸小あびっ子クラブで3年半勤務しました。3月末で退職となります。すごい勢いで突っ走ってきたという印象です。最近はサポーターさんたちを交え、今後の方向性について話し合いを行っています。また、後任のコーディネーターに引継ぎを行っているところです。たくさんの方たちの支えのおかげで今まで運営することができました。本当にありがとうございました。

(事務局) 4月から根戸小あびっ子クラブのコーディネーターになります。地域の方や学校などのご支援をいただき、根戸小あびっ子クラブは3周年を迎えることができました。今後ともよろしくをお願いします。

(事務局) 4月から三小あびっ子クラブのコーディネーターになります。現在は三小学童保育室のリーダーです。皆様の協力を得ながら、努力していきたいと思っています。

(事務局) 湖北台西小あびっ子クラブのコーディネーターです。3年目になります。スタッフと話し合いをし、協力を得ながら頑張ります。

(事務局) 湖北台東小あびっ子クラブのコーディネーターです。2年目も、より一層頑張っていきたいと思っています。

(委 員) 三小あびっ子クラブから異動し、並木小あびっ子クラブのコーディネーターとなります。並木小あびっ子クラブは6月にオープンします。三小あびっ子クラブの立上げに携って3年が経ち、今度は並木小あびっ子クラブの立上げに携る



ことになりました。今までの経験を生かして、より良いあびっ子クラブを作っていきたいと思っています。今後ともよろしく申し上げます。

(事務局) 4月から布佐南小あびっ子クラブのコーディネーターになります。現在は第二小学校の学童保育室のリーダーをしています。布佐南小あびっ子クラブは、他のあびっ子クラブと形態が異なりますので、しっかり運営していきたいと思っています。

(副委員長) 以上の方々が平成26年度のあびっ子クラブのコーディネーターとなります。どうぞよろしく申し上げます。続いて8校目あびっ子クラブの検討状況について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) サポーターさん、コーディネーター、スタッフの協力のおかげで、来年度は並木小あびっ子クラブと布佐南小あびっ子クラブが開設され、あびっ子クラブは市内に7校設置されることとなります。市内の小学校は全部で13校なので、半分以上の小学校にできたこととなります。平成27年度は、1校開設する予定で準備を進めているところです。あびっ子クラブを設置するためには、学校があびっ子クラブのメインルームとなる教室を提供してくれること、地域の方たちが協力をしてくれることの2点が重要です。あびっ子クラブを作りたいという要望が様々なところから多数あがってきていますし、子ども議会で直接子どもたちから市に対しての声もいただいています。特に今年の4・5月は保護者のみなさまから多数の要望をいただきました。開設は予算の関係もあり、1年に1校のペースとなっています。8校目となる設置校は来年度に発表の予定です。地域の方の協力が得られることになった時点で補正で予算確保し、開設に向けて準備をスタートさせる予定です。以上です。

(副委員長) ありがとうございます。

(2) 放課後児童クラブの基準に関する専門委員会の動向及び我孫子市における進捗状況

(副委員長) 引続き事務局から説明をお願いします。

(事務局) 本日配布しました「放課後児童クラブの基準に関する専門委員会の報告書」をご用意ください。これまで学童保育の運営基準が各自治体に委ねられ、公営、民営、NPO法人での運営など様々な形で運営されてきましたが、このたび子ども関係の法律が改正され、学童保育についても、国で明確な基準を策定し、各市町村がその基準に則って条例を制定し、平成27年の4月から学童保育を運営していくことになりました。平成26年度は子ども総合計画の見直し年度になりますが、その中に保育園の待機児童対策と学童保育室の施設整備が盛り込まれており、今後、この会議の場でも進捗状況を報告していきます。来年度の9月に条例改正を行うにあたり、計画のパブリックコメントを行う予定です。今話したことは、報告書の1ページ目の一番下のマル印のところに記載されています。「放課後児童クラブについては、子ども・子育て関連3法の中の児童福祉法の改正により、事業の設備及び運営について、厚生労働省令で定める基準

を踏まえて市町村が条例で基準を定めること」の一文です。その他に、対象児童の明確化、市町村の関与の強化、市町村の情報収集の規定等が盛り込まれました。国で基準を決めるにあたり、実際に携っている方々の意見を反映させるため、今年度、放課後児童クラブの基準に関する専門委員会が設置され、平成25年12月25日、報告書がまとめられました。「従うべき基準」は、国で決めた必ず従わなくてはならない基準です。「参酌すべき基準」は、ある程度の枠は国で決め、地域の実情に応じて行うものです。大きな焦点の1つ目は、従事する者、つまり学童保育で働くスタッフについてです。「従うべき基準」では、職員を2名以上配置し、うち1名は有資格者を必ず学童保育室に配置をしなければならないとなっています。更に学童保育室で働くスタッフについての資格が定義されました。まだ具体的な情報が県からきていませんが、情報収集している中で、学童保育室で従事する上での専門的な知識が必要であろうと議論されています。当市の学童保育室で勤務するスタッフのうち嘱託職員は必ず教職員の免許等または児童厚生員の資格を取得しています。また、県で主催する研修に参加し、児童を指導する上で必要な知識を習得しています。これらは、他市町村に比べても充実しているものとなっていますが、今回の基準では、更に生活支援に必要な知識・技能を習得するための研修が制度化され、県等が主催する研修に参加してもらうことになりました。しかし、当市だけを考えても、嘱託職員が60名、臨時職員も含めると130名もいます。他市町村も含め、1年間にすべてのスタッフが研修を受けるのは難しいことが想定され、段階的に研修を受けて資格を取得していくことになると予想しています。現在、我孫子市では学童保育室を運営するため、保育室ごとに必ず2名以上のスタッフを配置しています。2つ目は1支援あたりの児童の集団規模つまり1学童保育室あたりの人数です。以上の2点が明確化されました。来年度に向けて議論が進む中で、参考になることが書いてありますので、後ほど目を通していただけたらと思います。「改正前の児童福祉法では」と書かれているところをご覧ください。これまで我孫子市の条例では、3年生までの児童を対象としていましたが、今回の法改正により、小学校に就学している児童が対象となります。平成27年度の施行に向け、どの市町村も6年生までの児童を受け入れるための対応策に四苦八苦しているところです。学童保育の現有施設では、対応しきれない所が多いため、最近では、放課後子ども教室と一体的運営を行い、学童保育の待機児童対策に一定の効果を出している当市に視察にくる自治体が増えています。続いて2つ目の、児童の集団規模についてです。児童の集団規模はおおむね40名までとするのが適当であるとされています。多くの市町村においてこの人数を超える利用児童数となっている学童は多くあります。しかし、教室の確保が難しく、大規模化している学童が多くあります。そのためこの専門委員会で打ち出されたのが、1つの保育室内において複数のグループに分割して運営するというものです。すでに当市では三小学童保育室で実施しており、100人

収容できる1つの教室で2グループに分けて運営しています。いままでは、保育室の分室という概念が、壁がないと分けたことにならないとされていましたが、グループに分かれていればよいと提案されたのです。ただし、スタッフについては先ほど話したルールに則って配置する必要があるということです。「児童の集団規模」は「参酌すべき基準」ですが、その集団に配置する「スタッフの人数と資格」が「従うべき基準」であるため、両方をあわせて考えなくてはいけないということになります。その他に、開室日数、開室時間、設備等の基準が記載されていますが、当市はすべてクリアしています。続いて13ページの2つ目のマルに記載があります、放課後児童クラブと放課後子ども教室、当市では学童保育室とあびっ子クラブが、共に地域における放課後の児童の居場所であり、それぞれの事業を所管している厚生労働省と文部科学省、自治体においては所管部局間において共通した認識を持ち、事業のより密接な連携等を推進することが望まれるとされています。このように、放課後児童クラブと放課後子ども教室のより連携した推進を国も推奨していくことが打ち出されましたので、我孫子市においても、更なる連携強化に努めたいと考えています。以上です。

(副委員長) ありがとうございます。子ども・子育て支援制度に伴う学童保育の基準について説明していただきました。

### (3) 四小学童保育室の新築における進捗状況について

(副委員長) 続きまして、四小学童保育室の新築における進捗状況について、報告をお願いします。

(事務局) 四小学童保育室の新築における進捗状況について、来年度の4月から利用できることを目標に工事を行っています。若干の遅れは生じているものの、概ね計画どおり工事は進んでいます。現在は内装の工事を行っている段階です。以上です。

(副委員長) ありがとうございます。事務局から3つ報告がありましたが、何か質疑等がありますか。

質疑等なし。

(副委員長) 青少年相談員をされている委員の方、子どもたちを前にすることが多いと思いますが、遊びの研修等を行っているのでしょうか。

(委員) 外部から得た情報を相談員がお互いに教え合ったり、東葛地区の相談員が集まって各地区が持回りで研修を行ったりしています。

(副委員長) 先ほどの事務局からの説明では、児童の遊びを指導するものという固い文言となっていますが、これは実際に研修を受けなければならないということでしょうか。

(事務局) 今の段階では、そのように聞いています。

(委員) 先ほどご説明いただいた内容は、サポーターも対象でしょうか。

(事務局) いいえ、市が任用しているスタッフが対象で、サポーターは対象ではありません。

(委員) サポーター向けの研修はあるのでしょうか。

(事務局) 現時点で当市では行っていません。放課後子ども教室を幅広く行っている他県では、サポーター向けの研修を行っているところもあります。

(副委員長) 他市町村のサポーターさんが集まり、幅を広げていけるような研修を行えたらよいのではないかと思います。

(委員) 青少年相談員をやっている中、経験年数が長い者から短い者まで見てみると、やはり経験年数が長い者は様々なことを知っていて、例えば手元に遊具がなくても、子どもたちが楽しませることが出来ます。しかし、経験年数が短い者は、なかなかそのようなことができず、餅つきのやり方すらわからない者もいます。今後、経験年数や地域が異なる相談員同士が交流できる場を作っていくことが求められてくるのではないかと感じています。

### 3. 川村学園女子大学研究グループによる研究成果及び点検評価について

(副委員長) 川村学園女子大学研究グループによる研究成果及び点検評価について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 前回、みなさまのご協力を得て「参加」、「安心安全」、「体験活動」、「その他」の4項目について話し合い、課題等についてご意見をいただきました。このご意見を元に、コーディネーターと話し合いを行ったので、その内容を報告します。報告後、各委員からご意見をいただき、来年度に生かしていきたいと考えています。まずは「参加」です。たくさんの子が登録しているかというご質問をいただいておりますが、こちらについては年間の活動報告に載っていますので、省略します。また、どのくらいの子が利用しているのか、高学年・配慮が必要な子も参加できているのかについては、資料3にまとめています。各コーディネーターから利用状況の説明をお願いします。

(委員) 一小あびっ子クラブです。一小あびっ子クラブは現在7年目ですが、4年目あたりから高学年の参加が少なくなりました。低学年のときにあびっ子クラブをたくさん利用し、あびっ子クラブのことを知り尽くしたのち高学年となった子を引き込むのは難しいと思っています。7年目の全体の利用率は83%で悪い数字ではないと思っています。また、支援学級の子の利用率は100%で、このうち高学年の子は1~2回の利用で、低学年の子は毎週のように利用している状況です。以上です。

(委員) 根戸小あびっ子クラブです。この資料では、授業参観及び懇談会等の行事がある日の利用状況が読み取れませんので、今後わかるような形に見直してもよいと思います。年に1~2回だけの利用ですが、懇談会の際に利用する方がた

くさんいて、安心して預けることができる場所にあびっ子クラブがなっていることがわかりました。また、高学年の支援学級の児童がたくさん利用しているので、このような場所があつてよかつたと思っています。

(委員) 三小あびっ子クラブです。学年によって傾向が異なると感じています。現在6年生の児童は開設当初から利用率が高く、6年生となつた今でもたくさんの児童が利用しています。また、個人別で見ると昨年度は利用が0回だつた児童が、今年度は毎日のように来ているケースもありました。

(委員) 湖北台西小あびっ子クラブです。資料に載っている情報は、あびっ子クラブが開設した年度のもので、利用率は今年度に比べて高いですが、低学年及び支援学級の児童の利用率は、今年度のほうが高くなつています。ちなみに、高学年の児童は夏休み明けから利用率が低下する傾向にあります。以上です。

(委員) 湖北台東小あびっ子クラブです。クラスによって利用率のばらつきがあるのが興味深いと思っています。

(事務局) あびっ子クラブによって、開設されてから長いところもあれば、今年度設置されたところもあり、利用率にその傾向が表れていると思います。この資料の作成を、今後も毎年続けていくか、後ほどご意見をいただけたらと思います。続いて「安全安心」についてです。あびっ子クラブでの主な事故・怪我については、以前にも報告させていただいたところですが、今後も事故報告があつた事故・怪我についての報告を続けていきます。また、サポーターさんたちから、チャレンジタイムを行っているが、人手が足りていないところもあるだろうとのご意見があります。そういった場合に、どのように対処するか、この運営委員会で話し合つていきたいと思っています。昨年、一小あびっ子クラブでチャレンジタイムまつり時に人手が足りず、運営委員会で議題として取りあげたところ、他のあびっ子クラブのサポーターさんが、次の時は手伝ひに行つてくれたという経緯がありました。このように、サポーターさんが集まらない課題という点で、今年度にオープンした湖北台東小あびっ子クラブのコーディネーターから報告をお願いします。

(委員) 湖北台東小あびっ子クラブは、サポーターさんの登録人数が他のあびっ子クラブと比べて少ないです。オープンの日に保護者がサポーターとして参加し、サポーター登録をしたものの、以降の参加が無い方もいます。また、保護者向けにあびっ子クラブの紹介をする機会を学校側からいただいたときに、「サポーターさんになってください」と伝え忘れてしまったのもサポーターさんが少ない原因となっています。今後、どのように保護者の方々にもサポーター登録をしてもらうかが課題となっています。また、湖北台西小あびっ子クラブと地区社協及び民生委員のエリアが重なつているため、先にオープンした湖北台西小あびっ子クラブで既にサポーター登録をしている方が多数いて、両方で活動して下さつているサポーターさんがいるものの、予定が合わず湖北台西小あびっ子クラブのみで活動し、湖北台東小あびっ子クラブでは活動ができていないサ

ポーターさんもいます。今後、どのようにサポーターさんを増やしていくかが悩みとなっています。子どもの外遊びの見守りをする年齢層のサポーターさんがいないことが一番大きな悩みです。児童の保護者ぐらいの年齢層の方にサポーターをしていただけたら良いと思っています。

(事務局) ありがとうございます。今年度オープンした湖北台東小あびっ子クラブから悩みと課題をお話しいただきましたが、他のあびっ子クラブでも少なからず同じような悩みがあります。前にもお話ししたかもしれませんが、三小あびっ子クラブでもサポーターさんの登録が伸び悩んでいます。知人に声をかけたり、学校の協力を得てチラシを配ったり、学校支援ボランティアさんと連携する等、様々な工夫をしてきましたが、地域の実情によってなかなか集まらないところがあります。今後もサポーターさんの登録を増やす活動をしていくことは、今後の大きな課題となっています。先日、学校支援ボランティアのコーディネーターの方とお話をし、今後は、連携を強化し、ボランティア登録している方々を活用していこうという話になりました。

(事務局) 続いて、あびっ子クラブの行き帰りなどで心配なことについてですが、先ほど一小あびっ子クラブは心配事が今の時点では無いとのことでしたので、根戸小あびっ子クラブから順番に最近あった事例と対応策を含めて報告をお願いします。

(委員) 根戸小あびっ子クラブでは、少し前のことですが夏休み中に子どもが9時30分に自宅を出たのにもかかわらず、あびっ子クラブにはなかなか到着しないことがありました。その日は、きょうだいとお友だちの3人で来る予定となっていたのですが、あびっ子クラブに向かう途中で森の中で昆虫を探すなど、道草したため、到着が11時頃となったのです。あびっ子クラブから子どもに、注意するとともに、家庭でも話合いをしてもらいました。それ以降は、そのような問題は起きていません。

(委員) 三小では、昨年末に交通事故に遭ってしまった子どもがいました。それ以降しばらくの間、下校時に学校の昇降口や校門を出たあたりで学校の先生方とともに、帰宅する子どもたちの見守りを行いました。

(委員) 湖北台西小あびっ子クラブでは、あびっ子クラブを閉室時間に出発した子どもが30分以上経っても自宅に到着せず、保護者から電話問合せがありました。結果的には問合せがあったすぐ後に帰宅したのでよかったです。その日は、家の方向が同じ子どもたち3人で帰って行ったので安心していましたが、途中で遊んでしまい帰りが遅くなったので、それぞれの保護者からお子さんに注意してもらいました。その後、1人のお子さんの保護者がお迎えに来るようになり、このような問題は起きていません。

(委員) 湖北台東小あびっ子クラブは、メインルームが校舎の3階あるためか、親がほとんどお迎えに来ないので、利用児童の親の様子や顔がわからず、心配しているのかも把握ができていない状況です。また、先日はあびっ子クラブに

登室してきた児童にハンコを押してあげた後、5分も経たずに帰ってしまったことがありました。もしかしたら、あびっ子クラブに行ったという事実を作って、他のところで遊んでいるのかもしれないので、その子には、「ハンコを押してもらうのが目的であびっ子クラブに来ているのであれば、ハンコは押さないよ。来たときはもっと長く遊んでね。」と伝えたところ、それ以降すぐに帰ってしまうことはなくなりました。

(事務局) 各あびっ子クラブからの説明があり、状況がわかっていただけだと思います。引き続き報告を行い、終わった後に委員のみなさまからご意見をいただけたらと思います。次に「体験活動」の利用の流れがしっかり児童に伝わっているのかについてです。年度初めのタイミングがちょうどよいと思いますので、5月の運営委員会で報告を行います。次に児童が望む多様な活動についてです。外遊びや内遊びは児童が望んでいるものになっているのか、新しい体験学習の機会はあるのかについて、各あびっ子クラブから報告してもらいます。一小あびっ子クラブから順番にお願いします。

(委員) 一小あびっ子クラブでは、新しいチャレンジを取り入れることが課題だと思っています。一年を通じ、季節に合わせて安定したチャレンジが行われていますが、新しいチャレンジを考えていくことが、高学年の児童の低い参加率への解消につながっていくと思っています。以前、バザーのときに投書箱を作り、子どもたちがどんなチャレンジを望むのかを調査したところ、子どもたちから出てくる意見はゲーム機を置いて欲しいなど生活範囲内のことだったので、子どもたちへ問う難しさを感じました。大人たちの日常会話の中で、新しく魅力的なチャレンジを掘り起こしていかなくてはと感じています。

(委員) 根戸小あびっ子クラブでは、茶道の体験が3月に予定されています。30～40人ぐらいの児童しか対応できないかもしれませんが、検討を進めているところです。

(委員) 三小あびっ子クラブは、サポーターさんたちの集まりがあまり無い状況です。大学生がサポーター登録していますが、就職してしまうと参加しなくなってしまう。今年度の新しいチャレンジはなく、停滞気味となっています。

(委員) 湖北台西小あびっ子クラブは2年目にグラウンドゴルフのチャレンジが加わりました。年に1つずつチャレンジを増やしていきたいと思っています。

(委員) 湖北台東小あびっ子クラブも年に1つずつチャレンジを増やしていきたいと思っています。

(事務局) 今の報告からわかることは、チャレンジは関係者の都合もあり調整が難しいため、努力しないと増えていかないということです。また、子どもたちが望んでいる遊びは子どもたちが知っている範囲のものしかないという報告がありましたが、今の子どもたちは大人たちが子どもの頃にやった遊びを知らないで、何がしたいか聞かれても今流行っているカードゲームやゲーム機しか思い浮かばないのだと思います。大人から子どもたちに様々な遊びを提供していくスタイ

ルが、子どもたちにとって新しい発見につながると考えています。そのためには、サポーターさんを増やしていくことが課題として見えてきました。今後のことについては、運営委員会で随時活動報告をしていきますので、その中で皆さまからご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。最後の「その他」は、サポーターさんの参加状況についてです。先ほどの湖北台東小あびっ子クラブからの報告には、この内容が含まれていましたので、湖北台東小あびっ子クラブを除いて報告をお願いします。

- (委員) 一小あびっ子クラブは、PTAの方たちが開設当初から協力してくださっていて、小学生の子どもがいる保護者サポーターさんは現在5名います。うち1名は6年生の保護者なので来年度は1名減ってしまうため、4月のおたよりでPTAにサポーター登録を呼びかけていきたいと思っています。今までもおたよりで呼びかけを行ってきましたが、おたよりを見て応募してくるサポーターさんは少なく、友だちつながりで応募してくる方が多いです。これは小学生の子を持つ保護者に限らず、友だちつながりで応募してくるサポーターさんのほうが長続きする傾向にあります。現在、一小あびっ子クラブには32名のサポーターさんがいますが、そのほとんどがチャレンジを行うサポーターさんなので、非常に参加回数が多いです。保護者サポーターさん5名は長期間参加が無い状況にありますが、他の27名は来年度もサポーター活動を継続する回答をいただいています。
- (委員) 根戸小あびっ子クラブです。昨年の5月から今年の1月までに、サポーターさんが延べ人数で何人参加したか調べたところ、参加が少ない月は延べ47名で、多い月は延べ73名もおり、サポーターさんたちは協力的に参加してくださっています。その中で、小学生のお子さんがある現役の保護者が2名、お子さんが小学校を卒業しました保護者が1名、合計3名の保護者が活動しています。チャレンジや見守りを行うほか、自分から活動中にやってみたいことを提案し、積極的に関わっています。
- (委員) 三小あびっ子クラブは、オープンした年度は保護者の方もサポーター登録をしていましたが、2年目は2名が辞め、3年目は0名となりました。保護者以外のサポーターさんの活動ですが、健康クラブの方々がたくさん登録しているのですが、根戸小あびっ子クラブのエンジョイさんたちとは少し形態が違い、健康クラブさんの活動の中に子どもたちを入れてもらっている形態になっています。健康クラブさんの活動としてあびっ子クラブに参加する日はたくさんの方がいらっしゃいますが、健康クラブの活動日以外にあびっ子クラブの活動に参加しているのは1人だけで、他の方たちにはなかなか参加してもらえない状況です。
- (委員) 湖北台西小あびっ子クラブはサポーターさんに恵まれ、本日出席している委員さんを始め、地域で子どもたちと遊び、見守ってくれる方が5～6人おり、週に4日は必ず1名以上が参加しています。グラウンドゴルフ、手話ダンスのチ



チャレンジを行っているサポーターさんたちも、月に1～2回は参加しています。保護者のサポーターさんについては、昨年の6月から1年生の母親1名が週に1回のペースで来ています。

(事務局) ご報告ありがとうございました。前回いただいた宿題事項を掘り下げた内容の報告は以上となります。この後、委員の方々からご意見をいただけたらと思います。

(副委員長) 前回の会議でいただいた課題である「参加」、「安心安全」、「体験活動」、「その他」について、事務局及び関係委員から報告してもらいました。報告があった内容の他に加えたほうがよい内容等がありましたら、ご意見をいただけないでしょうか。

(委員) 資料を拝見させていただき、ありがとうございました。そもそもなぜこのような報告をしていただいたかと言うと、これまでの会議資料は情報がたくさんあり過ぎたため、どういう目標で何を見ればいいのかを整理したかったためです。今回、参加者数に焦点を絞った資料を作っていただいたことで、登録者数の資料よりも実態がわかりやすくなったと思います。あと残っている課題は、先ほど委員長が仰っていたとおり、この項目だけでいいのかだと思います。他にも、情報や機会をきちんと提供できているのかを目標として資料を作ったほうがよいと思っています。例えば、おたよりはあびっ子クラブごとに個性のある作り方をしていますが、共通する部分は統一し、きちんと伝えるべきことは伝える形にすべきと思います。また、あびっ子クラブが、校舎の3階あるため入口から遠かったり、恵まれた場所にあったり、施設の特徴があると思います。その特徴を個性と捉え、項目として量的ではなく質的にみんなで報告を聞くことができたと思います。「参加」の項目のところで、保護者会の人数を入れるか入れないかの話があがっていましたが、こちらの資料には保護者会の人数は入っているのでしょうか。

(委員) 今回の資料には入っていません。

(委員) 今回は入っていないのですね。入れるか入れないかは細かいようですが、保護者会のときは多くの児童が参加するので、大事なところだと思います。先ほどの報告や体験機会の提供という項目の中に、参加人数を正式に入れるかの整理をもう少しできるかと思いました。最後に、今回のような資料をいつ使うのかについての話し合いが必要だと思います。運営委員会は年に4回あるので、例えば1回目は前年度の全体を点検評価し、その後年間通して見るなどの使い方を決めたらよいと思います。その中に先ほどサポーターをしている委員の方が仰っていた、サポーターはどうすればいいのか、みんなの問題解決したいテーマを扱える内容を考えておけるのではないのでしょうか。1回目は点検・評価で終わってしまうと思うので、2回目や3回目の議題を1回目の会議の最後に決めるなど、事前にテーマを与え、次回までに考えてくるシステムを作っておくと議論しやすく、会議がより良いものになるのではと思います。我孫子市の会

議のやり方は、みなさんが努力をされていて、内容が揃って良いものになっています。外部に的確に発信していくためにも、評価をきちんと行い、洗い出しや点検など、中身の整理をすれば、よりすばらしくなると思います。以上です。

(副委員長) ありがとうございます。現在の項目に加え、情報提供を各あびっ子クラブからだけではなく、一本化しておく必要があるのではないかと、また、各あびっ子クラブがかかえる課題等についても出し合っていたら良いのではという意見をいただきました。その他、サポート体制の部分では、委員からの意見のように、我孫子市に存在している様々な団体への情報提供についても、この項目の中に入れられたらいいと提案がありましたので、今後、項目の作り方について、検討を進めていきたいと思っています。湖北台東小あびっ子クラブのコーディネーターから、クラスによって参加率にばらつきがあるという話がありました。湖北台東小学校の校長先生にお聞きしますが、各クラスの担任の先生から声かけはしているのでしょうか。

(委員) 担任の先生からそれぞれのクラスで案内はしていると思いますが、友だち関係などで、参加にばらつきが生じているのだと思います。サポーターさんの不足について、私のほうで認識しておらず申し訳なかったです。次回の学校だよりの2面に載せられたらと思っていますし、4月の保護者会で呼びかけが必要だと思いました。また、つながりであるということであれば、保護者の代表であるPTA会長を架橋として、さらにサポーターの呼び込みをするほか、サポーター代表の方のつながりを活用して、地区社協などにも話をしていきたいと思っています。

#### 4. その他

(副委員長) 閉会の時間となりました。平成26年度第1回運営委員会は、5月中旬から下旬に開催する予定です。開催日程が決まりましたら、事務局から通知を送ります。もし、委員が交代になる場合には、後任への引継ぎと事務局への連絡をお願いします。これにて閉会となりますが、何かご意見がある方はいますか。

(委員) あびっ子クラブの子どもたちの写真を拝見して、良いあびっ子クラブになっているなと思っているのですが、一つ注文があります。放課後子ども教室で子どもたちの自由遊びを観察したことがあるのですが、自分から遊びに誘ったり、話しかけたりするのが苦手な子どもが多かったので、工作だけでなく、コミュニケーション能力を伸ばす取り組みをしてはどうかと思いました。テーマを与えて、子どもたち同士が何か議論したり、どのような運営をしたらさらに良くなると思うか高学年の子どもたちに話し合ってもらったり、子どもたちの主体的な活動を促すものをしていただきたいです。今の子どもたちに欠けているのは自己主張なので、子どもたち自身が主体的に、あびっ子クラブ運営ができることよいのではと思っているのですが、いかがでしょうか。

(副委員長) ありがとうございます。もしかしたら、すでに各コーディネーターは子ども

たちに考えさせるようなことをしているかもしれません。実施状況について、今後この委員会の場で報告する機会を設けられたらいいかもしれないですね。その他はよろしいでしょうか。

(委員) ご報告なのですが、今年の2月1日に青少年相談員と教育委員会が主催で、市内全13小学校の子どもたちが集まって、綱引き大会を開催しました。全部で53チーム916名のお子さんたちが参加し、しのぎを削りました。相談員が大会前に朝の練習に行くのが日課になっていたのですが、今年の傾向として、何校かの学校が朝の練習、業間、放課後の練習という形で、1月の後半ぐらいから練習を開始したところもあれば、中には放課後の時間を使って綱引きの練習をしている学校が出てきました。前まではそういった学校はごく一部だったのですが、最近はそういった学校が増えてきたということ、報告させていただきます。

(副委員長) ありがとうございます。それでは最後となりますが、本日は傍聴者が1名いらっしゃいます。よろしければご意見いただけないでしょうか。

(傍聴人) 将来を背負って立つ子どもたちのための日頃の活動に感謝しています。私の子ども時代のことを振り返って将来を考える。これは歴史上の問題なのですが、私の子どもの頃は家に帰れば母親がいて、遊びは近所の友だちと真っ黒になって遊ぶという世代だったわけですが、今は時代が変わってきました。変えたのか変わったのかはわかりません。先ほどサポーターをしている委員の方から苦い発言があったのですが、将来の子どもたちを考え、心配された上での発言だったと思っています。今朝のラジオでも言っていましたが、一生懸命遊んだ子ほど良い大学に入る傾向があるようです。個人を尊重するために、自由にやりたいことを何でもやらせてあげるのではなくて、小学校時代はある程度、大人が引っ張ってやってあげることも必要だろうと思います。子どもたちがやりたいと思っていること以外のことやらせることで、個性が出てくるのではないかと思いますので、ぜひそういったことを続けていただきたいです。そして最後に、これだけの組織の中の代表者がこの場に集まっているので、組織をまとめていくのは教育委員会なのか、子ども支援課なのか、連携のシステムを周りから見てわかりやすく明確にしていけないといけないと思っています。あびっ子クラブでチャレンジを行いたいが、どこに連絡を取ればいいのかわからない方が多いと思います。そのような連携するシステム作りは、子ども支援課だけでは大変なので、みんなで理解し合わない絵に描いた餅になり、現場は苦労すると思うので、ぜひ考えて欲しいと思います。それから、私自身、言うだけではなく行動として、並木小あびっ子クラブのサポーター登録をしました。以上です。

(副委員長) 以上で放課後対策事業運営委員会を閉会とします。ありがとうございます。

【閉会】